

正誤表

『超絶解説 医学論文の難解な統計手法が手に取るようにわかる本』第1版第1刷（2019年11月20日発行）に誤りがございました。下記のとおり訂正し、お詫び申し上げます。

2020年1月9日

金原出版株式会社

記

頁	訂正箇所	誤	正
14	12行目	通常の <u>線形回帰分析</u> と	通常の <u>回帰分析</u> と
44	コラム 15行目	<u>分散</u> は……ができます。	<u>標準誤差</u> は……ができます。
	コラム 16行目	つまり <u>分散</u> は……となります。	つまり <u>標準誤差</u> は……となります。
	コラム 19～22 行目	<ul style="list-style-type: none"> ・ a=4494, b=8535, c=<u>3億</u>, d=<u>6億</u> (対照の夜が2晩のため) ・ オッズ比 = $(4494 \times \underline{6億}) / (8535 \times \underline{3億}) = 1.05$ ・ <u>分散</u> = $\sqrt{1/4494 + 1/8535 + 1/3億 + 1/6億}$ $\doteq \sqrt{1/4494 + 1/8535} = 1.70 \times 10^4$ となります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ a=4494, b=8535, c=<u>3億×494</u>, d=<u>3億×988</u> ・ オッズ比 = $(4494 \times \underline{3億 \times 988}) / (8535 \times \underline{3億 \times 494}) = 1.05$ ・ <u>標準誤差</u> $\doteq \sqrt{1/4494 + 1/8535} = 1.84 \times 10^{-2}$ となります。
119	10行目	<u>LIFETIME</u> procedure	<u>LIFETEST</u> procedure
120	15行目	<u>LIFETIME</u> procedure	<u>LIFETEST</u> procedure

以上